

君津製鉄所の色彩計画の概要

Color Planning of Kimitu Ironworks

佐藤 嘉昭

新日本製鉄(株)君津製鉄所

Yoshiaki Satou

渡辺 康人

(株)日本カラーテクノロジー研究所

Yasuto Watanabe

1. はじめに

新日本製鉄君津製鉄所は東京湾を埋め立て造成し建設を行い、昭和43年より銑鋼一貫製鉄所として操業を開始している。敷地面積は1,020万㎡、建家面積は170万㎡を有し、高炉・転炉などの鉄源工場群と、圧延工場群として鋼板関係、条鋼・鋼管関係が配置されている。当所は建設時より色彩計画の概念を採用していたが、社会環境の変化を鑑み、新たな色彩計画を立案・推進しているので概要を紹介する。

2. 建設当初の色彩計画のコンセプト

君津製鉄所は「緑と太陽の製鉄所」づくりを理念とし、近藤恒夫先生の指導の下、①従来の製鉄所イメージを変革し若さ溢れるものへの一新、②周辺環境（海・緑樹帯・土）との調和、③鉄の生産設備のイメージの色彩化の3点を基本コンセプトとして計画された。具体的には製鉄所全体を4つの色彩ゾーン、即ち重量感覚のブルーグレー〔高炉帯〕、熱感覚のレッドベージュ〔製鋼帯〕、やや熱感覚のグリーン〔熱延帯〕、冷感覚のブルー〔冷延帯〕に分け、工場建家の屋根・壁の色彩を各ゾーンの基調色の類似色相とし、全体としての調和を図っている。

3. 新たな色彩計画のコンセプト

建設以来25年が経過し建物の老朽化が進展する中で、社会環境の変化として生産・機能より働く人を、また付加価値として色彩が重視されてきたことを契機に、都市景観を重視した製

鉄所への変革を図るべく新たな色彩計画を策定し、製鉄所のリフレッシュを推進している。計画の策定に当たっては、①既成の色彩ゾーンのイメージは尊重しつつも、②従来の工場イメージを払拭するリフレッシュさの強調、③作業環境の快適性を重視し楽しさ・ゆとりの演出、④但し整備性を考慮した色数・番号の指定、を基本コンセプトとした。

4. 建家の色彩計画

工場建家の外壁は従来1色であったものを、上下2色に分割し、下部はベースカラーとして各ゾーン共通の明るいベージュ、上部はサブカラーとして既成のゾーン色を配し個性的でソフトなデザインとしている。またシャッター・ドア等の建具には各ゾーン毎の高彩度色を配することでアクセント化を行い、単調さの軽減、楽しさ・ゆとりの演出を狙っている。これらを新マニュアル（表1）として策定し、順次建家のリフレッシュに適用推進している。

一方、建家内の色彩についても、従来の単調な安全色のみの塗装に対し、色彩生理に適応した配色等、働く人の快適性を考慮し、建物内装と機械設備を調和させた明るく楽しい色調への転換を進めている。

5. 機械設備の色彩計画

製鉄所内には、溶鉱炉を始め煙突・ガスホルダー・岸壁クレーン等のモニュメント的な機械工作設備が多く存在している。これらの設備に

についても、煙突は赤白模様、その他は機械色1色と単調な色彩であったが、同様のコンセプトに基づき、煙突はグレーを基調に空との調和を狙った鮮やかなブルーのアクセントを配したデザインに、また岸壁クレーンについても建家との調和を考慮しゾーン色であるグリーンとベージュで明るくソフトなイメージへと一新させている。

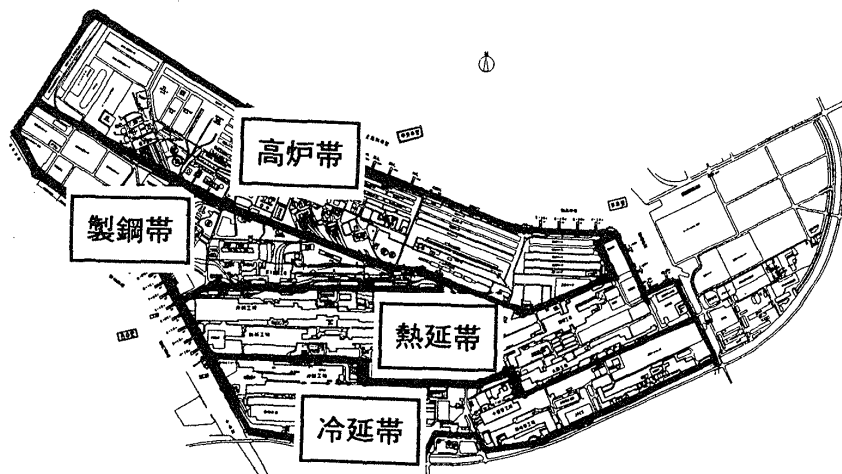
6. おわりに

これらの新しい色彩計画に基づく建物や機械工作物のリフレッシュは、対象設備が膨大であるため、まだ途上であるが、油汚れの激しい所でも清掃が行き届くようになる等、従業員のクリーン化・美化に対する意識の向上が図られており、それが製品の高品質化の一つの要因となると共に、「人と環境を重視した都市型製鉄所」に変革していくことを期待する。

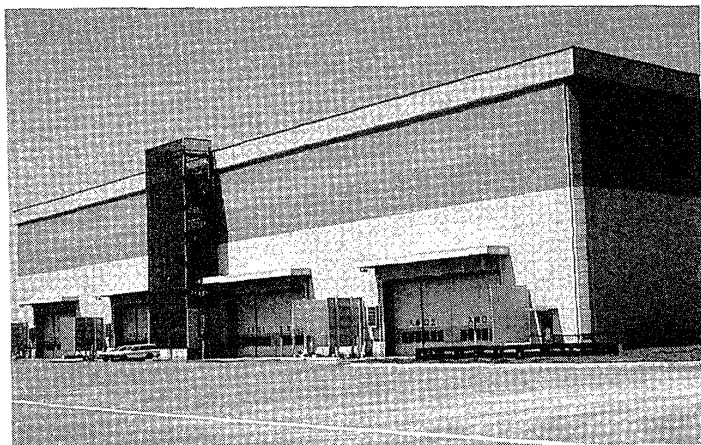
表1 建家外装色一覧

	高炉帯	製鋼帯	熱延帯	冷延帯
基調色	ブルーグレー	エンジ	グリーン	ブルー
屋根	5B4/3	7.5R3/6	7.5G4/4.5	10B6/7
外壁	上部 2.5B5.5/3	7.5YR6/2	2.5GY/2	10B4/7
	下部 10B7/2	5Y8/1		
シャッター	2.5Y5.5/6	5YR7/4.5	5GY7/8	5PB6.5/7
マンドア	10YR8/5.5			

図1 君津製鉄所の全体レイアウトと色彩ゾーン



薄板製品倉庫 建家外観



機械保全センター 建家内部



3 焼結煙突

